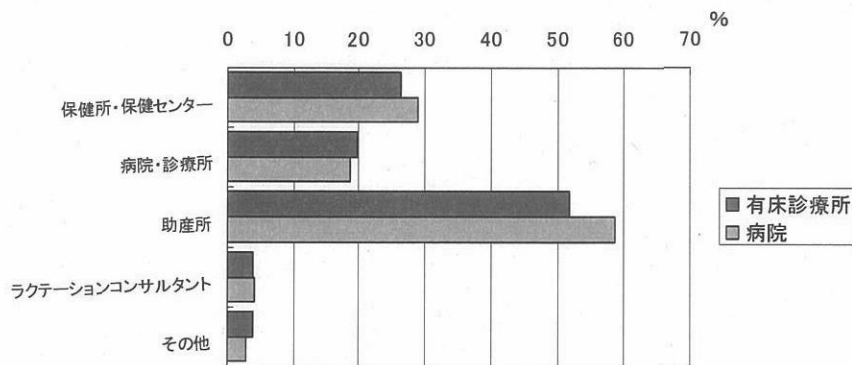


退院後の紹介先 (複数回答, 回答施設数を母数とした)



地域との連携 (複数回答)

項目	病院 (n=637)		有床診療所 (n=156)	
他施設や保健センターとのスタッフの交流	171	(26.8)	27	(17.3)
母乳育児支援に関する連絡会の開催	49	(7.7)	5	(3.2)
母乳育児支援に関する勉強会の開催	129	(20.3)	18	(11.5)
地域の母乳育児支援のネットワークづくり	47	(7.4)	15	(9.6)
地域の母乳育児の講習会への協力	58	(9.1)	23	(14.7)
母乳育児支援に関する研修会へのスタッフの派遣	179	(28.1)	42	(26.9)
母乳育児支援に関する研修の受け入れ	38	(6.0)	19	(12.2)
新生児・産婦訪問の受託	27	(4.2)	4	(2.6)
その他	23	(3.6)	3	(1.9)

注) パーセンテージは回答施設を母数とした値

施設数 (%)

資料: 平成 18 年度児童関連サービス調査研究等事業「母乳育児推進に向けた支援方策に関する調査研究」

(主任研究者 谷口千絵)

## 2 授乳の支援に関する基本的考え方

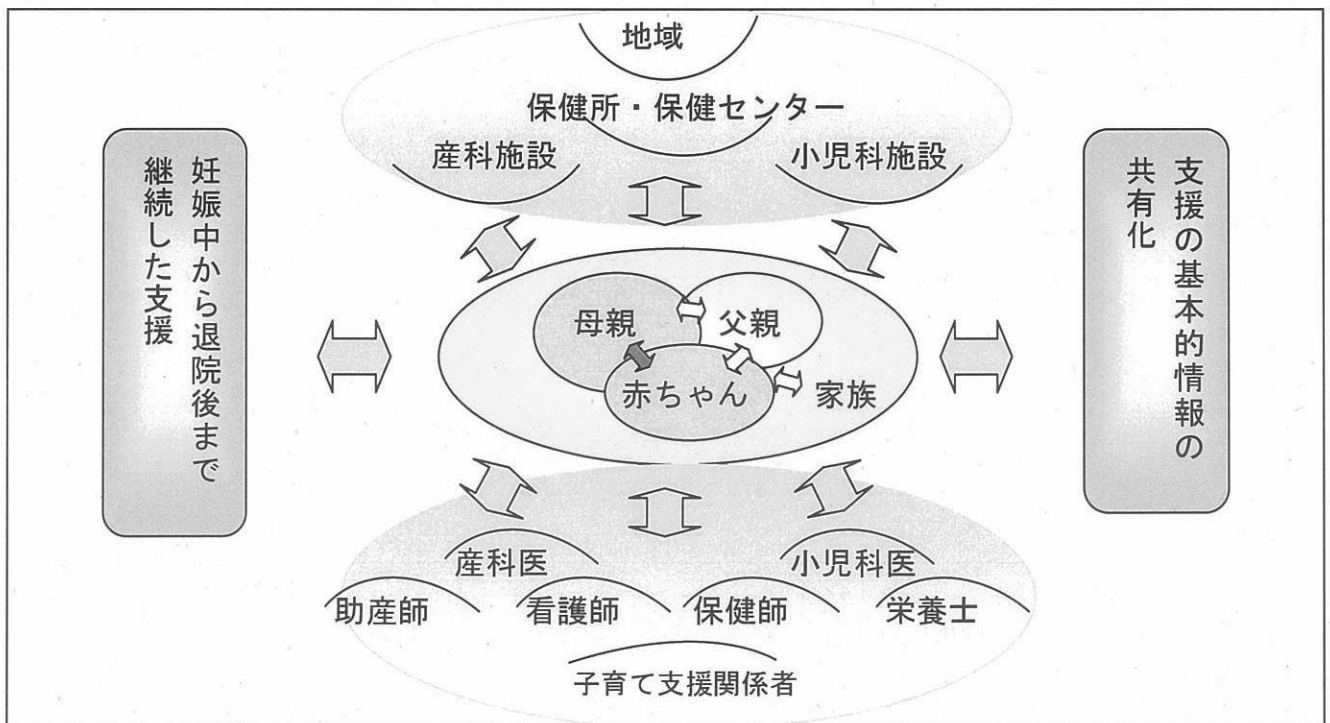
授乳は、赤ちゃんが「吸う」ことと母乳の「産生・分泌」、赤ちゃんが「飲みたいと要求」し、その「要求に応じて与える」ことなど、両者の関わりが促進されることによって、安定して進行していく。

また、授乳については、妊娠中から「母乳で育てたい」と思う割合が96%に達し、「母乳育児」を実現していくための支援も重要である。

母乳育児には、①感染症の発症及び重症度の低下②乳児に最適な成分組成で少ない代謝負担③出産後の母体の回復の促進④母子関係の良好な形成などの利点があげられ、単に母乳栄養の向上や乳房管理の向上のみを目指すものではなく、母乳育児をスムーズに行うことのできる環境（支援）を提供することが求められる。

授乳の支援にあたっては、

- ◆母親が子どもの要求を受け止め対応できるように、母親の状況を理解し支援することにより、母子関係を促し、母親の育児に自信をもたせることを基本とする。
- ◆妊娠中から退院後まで継続した支援、産科施設や小児科施設、保健所・市町村保健センターなど地域のすべての保健医療従事者における支援に関する基本的情報の共有化、社会全体で支援を進める環境づくりが推進されることをねらいとする。



授乳支援の推進に向けて